
死神とぼく

中二 病

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死神とぼく

【コード】

N2079Z

【作者名】

中二病

【あらすじ】

……あれ？ 何故書いた？

(前書き)

なぜ書いたのだろうか？

ぼく。

という人間をどう表すかによって、その人の世界が変わるなんて事は無いだろうけど、あえて表すと……

何だろうね？

こんなに無駄で長ったらしい一文で前置きしたのはいいのだけど……、まったくもって思いつかなかった。

と。

いうわけで、ぼくという人間はこのように面倒くさいことをいつも考えていると考えるもらっていい。ここでなぜ、ぼくという人間のことを表しているのかという疑問にぶつかる訳だが……、まあこればかりは、ぼく以外の人には分からないだろう。もし分かったならその人は名探偵と呼んでもいいし、こんな戯言に付き合うよりは宝くじを買いに行く事もお勧めしよう。

話を逸らしてきたが複線のへったくれも無いから安心して欲しい。じゃあ、なぜぼくが話を逸らしていたかという疑問にもぶつかるわけだが……

なんてことはない。ただ今、ぼくがしようとしている事が滑稽だからだ。

笑えないぐらいに滑稽な事、ただ風呂場でカミソリを手首に中ているだけだ。

まあ、中てているだけだ。まだカミソリをひくつもりは無い。死ぬ前に少しだけ、ほんの少しだけ考えることがあったので、こいうふうな思考をしているわけで……

「たくつ……、さつきから何、ちんたら思考してるのよ」
ちんたら思考することの何が悪い？

「時間が無いの。こちらとしては、いい加減、私の存在を認めて欲しいのよ」

そんな事言われても、ぼくには関係が無い。

親が帰ってくるのは、明日の今頃になるだろうし……

「これだから、ニートは……」

言っておくけど、ぼくはニートでは無い。

ちゃんと働いていたし、ちゃんと社会を回してた。

ただ……、それに飽きただけで……、生きるのが面倒くさくなっただけで……

「それを世間一般では駄目人間って言うのよ」

わかってるさ。それくらい。

だからこうしてるんだろ？

「とにかく0時ちようどに死ぬはやめてちようだい。そうすれば、
飴ちゃんあげるから」

え？ じゃあ、1時にする。

「いいの！？ 飴ちゃんです？」

ともかく飴ちゃんをくれ。じゃないとぼくは……

「ぼくは？」

新世界の神になる！！

(後書き)

本当に何故書いたの俺？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2079z/>

死神とぼく

2011年12月8日01時01分発行